

理科

理科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア	イ
【知識・技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けさせる。	【思考力・判断力・表現力】観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養っていく。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<p>ア小単元ごと的小テストでは高い得点率である。定期考査の結果を見ると、知識の定着が不十分な生徒がいる。</p> <p>イ実験レポートの評価において、結果をまとめ、考察することに課題がある生徒が多い。定期考査において、実験で考察した内容を記述させる問の正答率が低いことが課題。</p>	<p>ア生徒が知識・技能の定着をできるよう、振り返りの時間を設ける。教科書にある教材を用いて、視覚的に理解したり、実践したりできる課題を与え、繰り返し学習していく。</p> <p>イ実験の目的を明確にし、目的とまとめをつなげる思考を鍛える。必ず考える時間を設け、自分の言葉でまとめられる授業を行う。</p>	毎日の授業	<p>ア定期考査の知識の定着において、繰り返し学習の機会を設けることで定着率を上げた。</p> <p>イ目的意識をもって思考を深められるよう、導入やまとめの際に意識付けを行うことで正答率を上げることができた。</p>
第2学年	<p>ア小単元ごと的小テストでは高い得点率である。定期考査の結果を見ると、知識や技能の定着に課題がある生徒がいる。</p> <p>イ指示された実験を行うことはできている。しかし、結果から考察する力に課題がある。</p>	<p>ア生徒が知識・技能の定着をできるよう、振り返りの時間を設ける。教科書にある教材を用いて、視覚的に理解したり、実践したりできる課題を与え、繰り返し学習していく。</p> <p>イ考察するためにどのような点をしっかりと観察して記録する必要があるのか、実験中に明示すること、まとめの際に模範的な考察を共有することで学びの機会を設定する。</p>	毎日の授業	<p>ア定期考査の知識の定着において、繰り返し学習の機会を設けることで定着率を上げた。</p> <p>イレポート作成の後、他者の作成物を共有し、よい例を提示することで、課題解決を図った。</p>
第3学年	<p>ア小単元ごと的小テストでは高い得点率である。定期考査・復習確認テストの結果も良好である。しかし、応用力や、科学的思考力について不十分な生徒がいる。</p> <p>イ学力調査の結果、記述の問いにおいて文章の中に必要なキーワードを入れて表現する生徒が少ない。</p>	<p>ア生徒が知識・技能の定着をできるよう、本単元とつながりのある1、2年の内容を振り返りながら復習し、本単元と合わせて繰り返し学習していく。</p> <p>イ実験の目的を明確にし、自分の言葉でまとめられる授業を行う。タブレット端末を用いて他者の意見を共有し、自分の考えを深める取り組みを行う。教科書の実験とは違う方法を用いている問題に取り組みさせることで応用力を養う。</p>	毎日の授業	<p>ア基本的な内容に加え、発展的内容を題材に組み込むことで、応用に対応した学力を育んだ。</p> <p>イ目的意識をもって思考を深められるよう、導入やまとめの際に意識付けを行うことで正答率を上げることができた。</p>

<p><b>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について</b></p> <p>実験結果の記録、レポート提出を個々の状況に応じた方法により、行う。実験グループでの予想や結果の共有の際にICT 端末上でのやり取り、班や個人の意見を全体で共有する際に必要とする場合に利用できる環境を整える。</p>	<p><b>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 単元ごとに小単元の並びを確認し、見通しをもった学習活動ができる指導を行う。</li> <li>• 問いを作る授業を、有効と判断する単元では実施し、生徒が学び目的を明確にして授業に臨めるようにする。</li> <li>• 前時の復習や単元末小テストを行い、振り返りかつ繰り返し学習により学習内容の定着を図る。満点体験により意欲を高める。</li> </ul>
--	---